

燃やせるごみ湿ベース組成分類調査

1 調査の目的

宮代町内において、食品ロス削減をはじめとするごみ減量化推進に向けた基礎資料とするため。また、燃やせるごみを湿ベースで組成分類することで、含まれている厨芥類の重量・内容を把握し、ごみの適正な排出の促進を図るため。

2 調査実施日及び調査実施方法

(1) 調査実施日

令和6年 7月23日(晴れ)

令和6年10月 8日(雨)

(2) 調査方法

1回の調査で、町内3地区、3か所の集積所から燃やせるごみを収集し、内容物の調査を実施。

(3) 地区の地域性

A地区→町の北側、住宅が一定程度密集している地域

B地区→町の中央部、住宅が一定程度密集している地域

C地区→町の南側、住宅の点在する地域

3 調査結果の概要

(1) 全体的な傾向

燃やせるごみとして排出されたごみの内訳

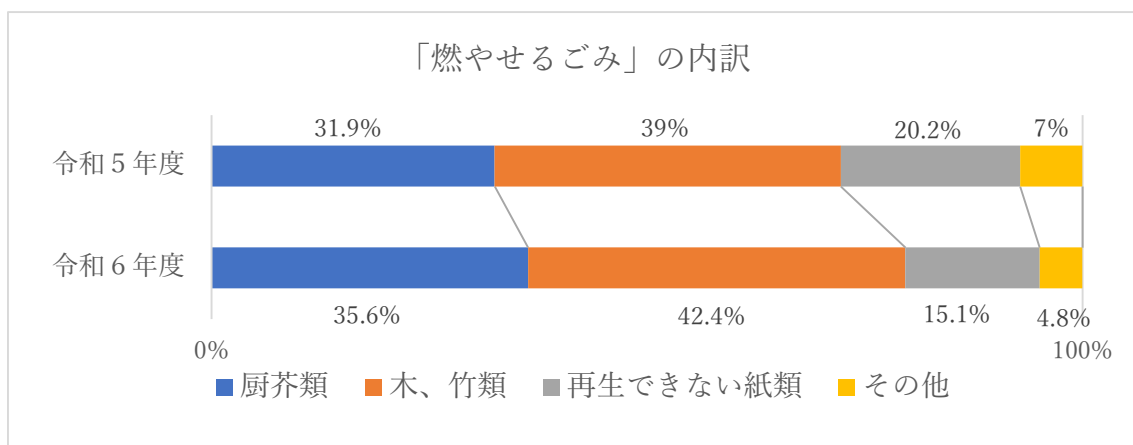
種類	令和6年度	令和5年度	前年度比較
燃やせるごみ	97.9%	98.1%	-0.2%
資源プラスチック	0.3%	0.6%	-0.3%
資源リサイクル	1.7%	1.2%	+0.5%
合計	99.9%	99.9%	

燃やせるごみは、97.9%正しく分別されている。

前年度の結果と比較すると「燃やせるごみ」として正しく排出されている割合は、0.2%減少している。

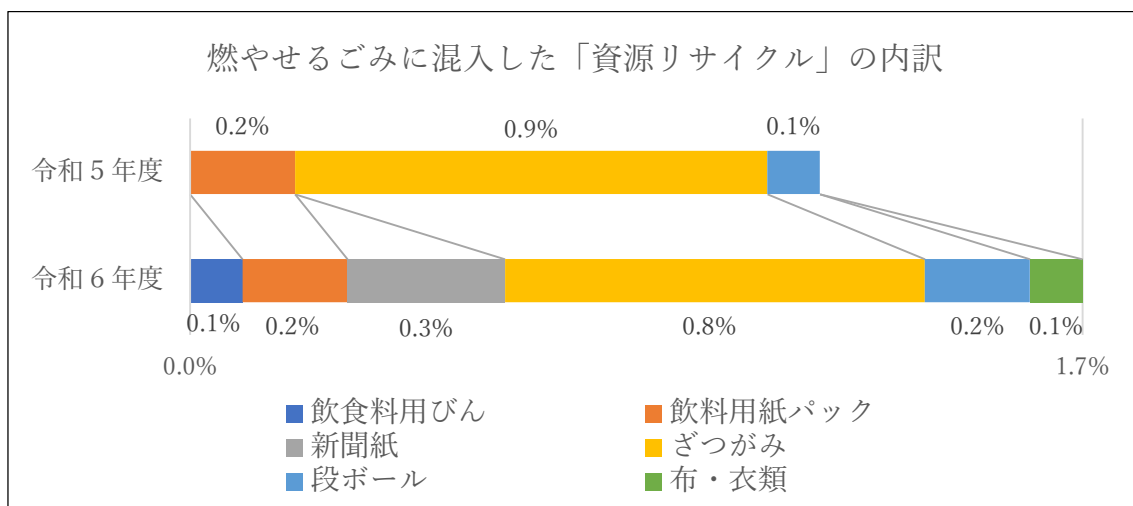
排出された燃やせるごみに占める「資源リサイクル」の混入割合が前年度より0.5%増加しており、「資源プラスチック」は0.3%減少している。

これらの結果から、本来分別すべき資源ごみの混入が依然として見られる状況であることがわかる。特に、「資源リサイクル」の混入割合が増加している点は、分別の徹底が課題として残っていることを示している。



「燃やせるごみ」の内訳をみると、厨芥類（生ごみ）が3.7%増加している。厨芥類については、次の表のとおり天気によって結果が左右されやすく、特に雨の影響を受けやすいことがわかる。

日付	天気	厨芥類の割合
令和6年 7月23日	晴れ	31.4%
令和6年10月8日	雨	42.7%
令和5年 6月6日	曇り	35.1%
令和5年10月24日	晴れ	28.5%



「ペットボトル」「雑誌」の混入は全体としてなかった。
 前年度と比較すると、「燃やせるごみ」に混入していた「ざつがみ」の割合が増加しており、「飲食料用びん」「布・衣類」が新たに混入している。一方で、「プラスチック」「新聞」の割合は、減少している。
 依然として、資源類が燃やせるごみとして排出されてしまっている。

(2) 地区別の傾向

① A地区

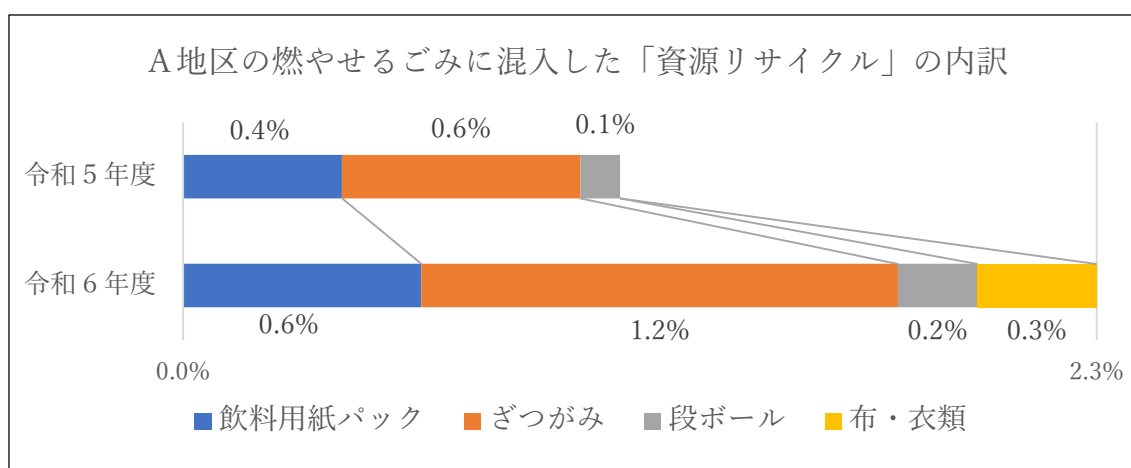
A地区の燃やせるごみの内訳

種類	令和6年度	令和5年度	前年度比較
燃やせるごみ	97.2%	98.2%	-1.0%
資源プラスチック	0.5%	0.7%	-0.2%
資源リサイクル	2.3%	1.1%	+1.2%
合計	100.0%	100.0%	

A地区の燃やせるごみは、97.2%正しく分別されている。

前年度のA地区の結果と比較すると、「燃やせるごみ」として正しく排出されている割合は、1.0%減少しており、「資源リサイクル」の割合は1.2%増加している。

また、「資源プラスチック」は0.2%減少しており、分別の状態が良くなっている。



A地区の燃やせるごみに混入していた「資源リサイクル」は、燃やせるごみ全体の2.3%であった。

「飲食料用びん」「飲食料用缶」「ペットボトル」「新聞」「雑誌」の混入がなく、分別が徹底されている。

しかし、「飲料用紙パック」「ざつがみ」「段ボール」「布・衣類」が混入しており、特に「ざつがみ」の混入が目立つ結果となった。

「ざつがみ」は前年度に比べ、混入率が倍となった。主な内容物として、飲食物の箱・チラシ等が比較的サイズの小さなものが目立った。

また、A地区では、資源物の他、「燃やせないごみ」の混入があり、内容物は鉄製スプーンであった。

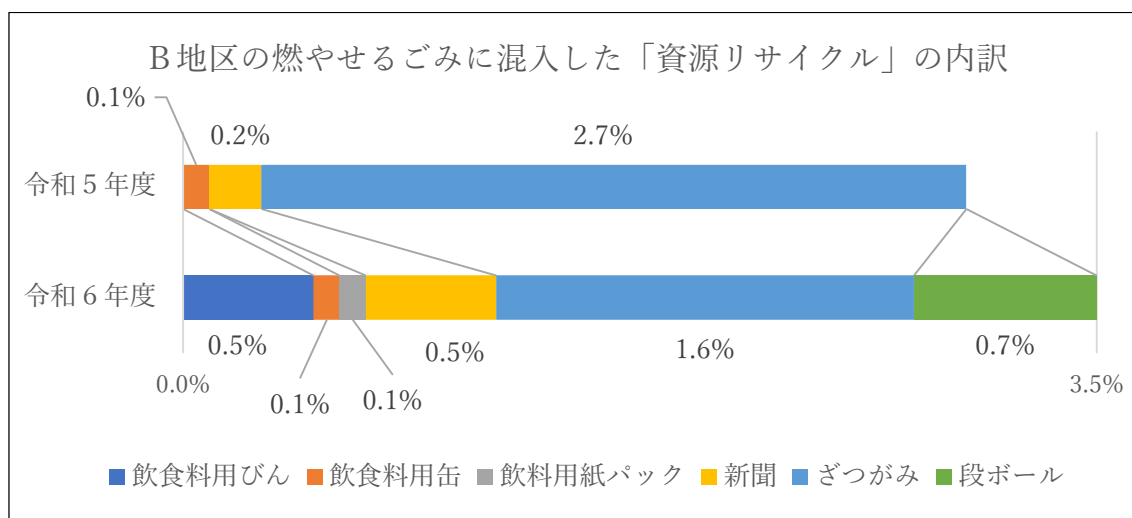
②B地区

B地区の燃やせるごみの内訳

種類	令和6年度	令和5年度	前年度比較
燃やせるごみ	96.0%	96.5%	-0.5%
資源プラスチック	0.6%	0.5%	+0.1%
資源リサイクル	3.5%	3.0%	+0.5%
合計	100.1%	100.0%	

B地区の燃やせるごみは、96%正しく分別されている。

B地区の結果を前年度と比較すると、「燃やせるごみ」として正しく排出されている割合は、0.5%減少している。また、「資源プラスチック」は0.1%、「資源リサイクル」は0.5%増加している。



B地区の燃やせるごみに混入していた「資源リサイクル」は、燃やせるごみ全体の3.5%であった。

「ペットボトル」「雑誌」「布・衣類」の混入がなく、分別が徹底されている。

しかし、「飲食料用びん」「飲食料用缶」「飲料用紙パック」「新聞」「ざつがみ」「段ボール」が混入しており、特に「ざつがみ」「段ボール」の混入が目立つ結果となった。

「ざつがみ」は前年度に比べ、1.1%減少したが、「段ボール」は0.7%増加した。「ざつがみ」の主な内容物として、トイレトペーパーの芯・飲食物の箱・チラシ等が目立った。

②C地区

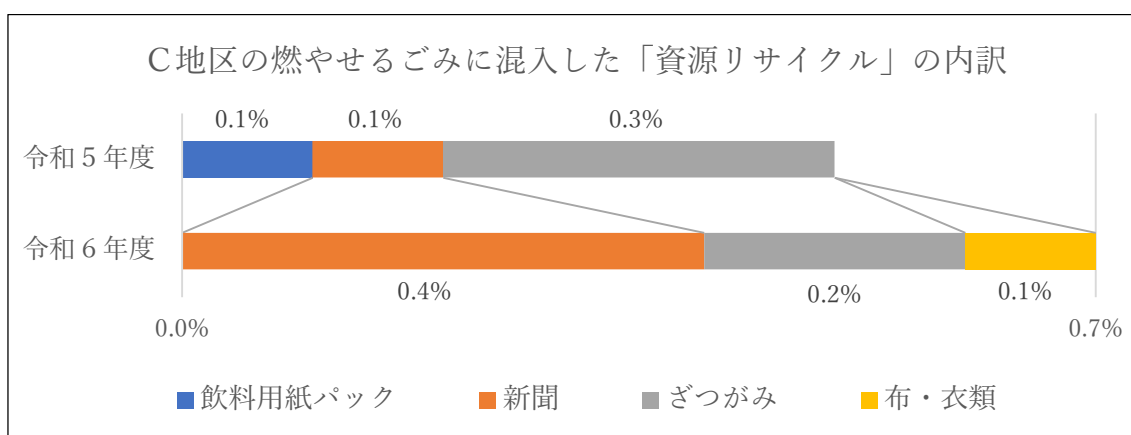
C地区の燃やせるごみの内訳

種類	令和6年度	令和5年度	前年度比較
燃やせるごみ	98.9%	99.1%	-0.2%
資源プラスチック	0.3%	0.5%	-0.2%
資源リサイクル	0.7%	0.5%	+0.2%
合計	99.9%	100.1%	

C地区の燃やせるごみは、98.9%正しく分別されている。

C地区の結果を前年度と比較すると、「燃やせるごみ」として正しく排出されている割合は、0.2%減少しており、「資源リサイクル」は0.2%増加している。

また、「資源プラスチック」の割合は0.2%減少しており、分別状態が良くなっている。



C地区の燃やせるごみに混入していた「資源リサイクル」は、燃やせるごみ全体の0.7%であった。地区別にみると、「資源リサイクル」の混入が最も少ない。

「飲食料用びん」「飲食料用缶」「ペットボトル」「雑誌」「段ボール」の混入がなく、分別が徹底されている。

しかし、「飲料用紙パック」「新聞」「ざつがみ」「布・衣類」が混入しており、特に「新聞」の混入が目立つ結果となった。

「新聞」は前年度に比べ、0.3%増加しており、読み終えた後異なる用途で使ったと思われるものであった。

4 課題及び今後の対応策等

(1) 正しい分別について

【課題】

調査結果から、本来資源として分別されるべき「資源リサイクル」や「資源プラスチック」が、依然として燃やせるごみに混入していることが課題である。また、「資源リサイクル」の混入割合が増加傾向にあることについても課題である。

【今後の対応策】

- ・正しい分別方法の詳細についての啓発

例：名刺サイズ以上の紙類は、「資源リサイクル」として排出

飲食料用のびん・かんは、「資源リサイクル」として排出

金属製品（電池が取り外せないもの以外）は「燃やせないごみ」として排出
（電池が取り外せないものについては「有害ごみ」）

- ・資源に関する知識の向上

自分の排出した資源がどのようなものに生まれ変わっているかを知る機会を作ることで、資源を資源として排出することへの意識醸成を図る。

ホームページや分別アプリのお知らせ等を利用して啓発を行う。

(2) 雨の日のごみ出しについて

【課題】

「燃やせるごみ」における厨芥類の割合も増加傾向であることが課題である。なお、厨芥類の割合については、雨の影響を受けやすい。

【今後の対応策】

- ・雨の日のごみの出し方についてポイントをまとめ、ホームページ等を活用して啓発する。

例：ごみ袋の口をしっかりと縛り水分が入らないようにする

(3) 厨芥類（生ごみ）の減量について

【課題】

厨芥類の減量は「焼却や再資源化、処分のコスト削減」「CO₂の削減」「ごみ収集の効率化」などに寄与する。一人ひとりに厨芥類の減量への意識を持ってもらうことが課題である。

【今後の対応策】

- ・厨芥類（生ごみ）の減量に関するホームページの充実化

生ごみに特化したホームページを構築する。生ごみの水切りのお願いや生ごみを減らすことに関するメリットを掲載する。

- ・生ごみ処理容器等補助金の普及・啓発

生ごみ処理容器等について、さまざまな場所で啓発を行う。存在を知らない方に対しての詳しい説明や、購入を検討している方に対して利用者の声を届けるなど、様々な状況に対応できる啓発方法を検討する。

- ・食品ロス削減意識の醸成

食品ロスに関する展示や、食品ロス削減推進キャンペーンを通じて、食品ロス削減への意識醸成を図る。より多くの方が「食品ロス」へ対する意識を持てるよう工夫した啓発を行う。